

33 「おやまあ、どうしよう！」息^い^{いき}を荒^{あら}く^くした熊^{くま}さんが言い
34 ました。猿^{さる}は、頭^{あたま}を搔^かきました³。鹿^{しか}さんは座^{すわ}ってしまい
35 ました。兎^{うさぎ}さんもととても疲^{つか}れてしまいました。
36 近くには、松^{まつ}⁴の木が1本立っていました。とても太くて、
37 古い木です。金太郎^{きんたろう}は、木の幹^{みき}⁵に⁶よりかかって、体が真っ赤
38 になるまでドンドン押しました。木は、パキッ、ミシッ、
39 ミシッ、パキッと音を立てて、ゆっくりと向^むこう岸^{ぎし}^た^おに倒^{たお}れ
40 ていきました。そして、大きな音と一緒^{いっしょ}に谷^{たに}を渡る橋^{はし}がで
41 きたのです。
42 金太郎^{きんたろう}は、先頭^{せんとう}⁸になって渡りました。お友達の動物達
43 は、安心^{あんしん}して⁹、ホッとしました。
44 実は、今金太郎^{きんたろう}がしたことを、驚^{おどろ}いて見ていた人もいた
45 のです。それは、都^{みやこ}¹⁰に行く途^{とちゆう}中^た¹¹の旅人^{たびびと}でした。源頼光^{みなものよりみつ}
46 様^{さま}のもとへ行^いくところ^{ところ}です。
47 旅人^{たびびと}は、動物達^{どうぶつ}に気付^{きづ}かれて逃^にげられないように、静^{しず}か
48 に遠くからついて行きました。そして、金太郎^{きんたろう}が、動物達^{どうぶつ}
49 とお別れをしてお母さんが待っている山小屋^{こや}¹²に入^いって行
50 くのを見届^{とど}けて¹³から、金太郎^{きんたろう}のお母さんに話^わすことにし
51 ました。旅人^{きんたろう}は、力持ちの金太郎^{みなものよりみつ}を源頼光^{みなものよりみつ}様^{さま}のところに
52 連れて行こうという考えだったのです。

¹'adem, ademhaling'

²あらい 'wild, ruig'

³かく 'krabben'

⁴'den'

⁵'boomstam'

⁶よりかかる 'leunen'

⁷'overkant'

⁸'voorop'

⁹あんしんする 'opgelucht zijn'

¹⁰'hoofdstad'

¹¹'halverwege, onderweg'

¹²小屋 betekent 'hut'

¹³みとどける 'nakijken, zich ervan verzekeren'